

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101119		
法人名	有限会社 浅善		
事業所名	グループホーム出愛荘 2F		
所在地	滋賀県大津市際川4-13-6		
自己評価作成日	平成27年12月20日	評価結果市町村受理日	平成28年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成28年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・笑いの多い楽しい雰囲気作りを目指しケアに取り組んでいます ・事業開設以前より事業者代表が自治会役員で地域社会と関わり、また15年間にわたって母親の介護にもあつた経験を通じ、「施設」ではなく高齢者が最期まで自然体で暮らせるような「住まい」を目指しております。また職員一人ひとりの個性を尊重し「自然体」のケアで利用者、ご家族、地域の方と人間関係を築いていきたいです ・とにかく「利用者をよくみるように」と心がけ、利用者の身体重度、認知症進行で出来ることが減っても職員が間に入ってとても温かな雰囲気を創り上げるようにしています ・職員、ご家族との協力のもとで一緒にケアを行なうように努めています。 ・年間を通して利用者の方が楽しんで下さるような様々な行事も取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR唐崎駅から徒歩5～6分の戸建ての住宅に囲まれた環境に立地している。終末期に関しては、事業所のできることできないことを利用者家族には丁寧に説明して納得を得るとともに、人生の最後をここで過ごせてよかったと思ってもらえるように丁寧なケアに努めている。開設来11件の看取りをしており、家族からの信頼度も高い評価を受けている。季節ごとのドライブ、日常の外での食事会、お茶会の催事などや、マッサージの施術や口腔衛生管理などを組み入れ、生活の単調化を防ぐよう努めている。利用者の表情も穏やかである。職員が生き生きと働き、気持ちの良い対応が随所に見られる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と共に」「自然と共に」「地域と共に」をスローガンとして毎朝礼時に読み上げ意識付けをしている	理念を玄関等に掲示し、毎朝礼時に唱和している。日々のケアで壁に当たった時は理念に照らしてケアの中身を吟味して理念の共有・意識付けに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会祭り、民生ボランティアによるサロンへの参加を継続して交流をはかっている	自治会の行事には積極的に参加し、交流を深めている。近くのボランティアサロンに週一回のペースで出向き、地域の一員としてふれあいを強めている。認知症についての相談を受けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	最近では介護保険制度についての相談が多くなり、地域サロンのようなことを行ないたい考えがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	これまでの課題であった防災、避難訓練においてに運営推進会議で意見をいただき、今後の参考になるヒントを頂きました。	年6回民生委員や地域包括職員・家族代表を交えて開催している。防災関連の懸案課題である更なる地域協力を得るために、消防団員との関係強化をとの提案があり自治会を通じて進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大津市介護保険課とは困った時、資料提出等折にふれ連携に努めている。	昨年は特に新規事業展開や更新手続き等で介護保険課に出向く事が多く、担当者との関係は良好で、多くの事務的な協力を得る事が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けた研修を基に取り組んでいる。	身体拘束関連の研修を受講し、日常のケアの中で気配りをして拘束にならないケアに留意している。安全性に大きな問題があるような場合は、家族の理解・了解を得た上で最小限の保護措置を講じることもある。昼間は玄関は解錠し、見守りで安全確保に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に赴いたことを報告して実践に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度において今年度は出愛荘利用者6名の方が制度利用しているため、関係者の方と関わる機会は多々ある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の場合必ずご家族に来ていただき、ご理解を得た上で話をすすめるようにしている。改定の場合は文書、電話両方にて確認、説明をさせていただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議にて抽出して、職員会議にて報告して反映に努めている。時には面会時にご意見を伺うこともある	面会時や運営推進会議等を利用して、家族から意見・要望を聞き、ケア会議やユニット会議で検討してケアに活かしている。補聴器や義歯の不具合などの医療に関する要望等を受けることがあり、受診時にサポートしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ケア会議、その他の会議に代表者に意見や考えを聞いてもらう場を設けていただき反映するように努めている。会議まで待てないものなどは即日、管理者に確認を行ない実行、再検討に取り組んでいる	ユニット会議やケア会議で意見・要望を汲み取って運営に反映している。職員の作業負担を軽減する為に、昨年9月移乗リフトを購入し、ケアの中での腰痛防止などに効果を上げた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のケア会議に代表者も出席しているので確認の上、整備につとめている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部研修を行ない伝達報告もしており、今年度も内部研修に、研修終了後職員より伝達講習会も催している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの方との情報交換や、交流も行い左記内容に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前は本人や日頃つながりのある方々（家族、介護サービス関係者など）直接お会いしてお話を伺い、利用開始後はそれを基に本人の何気ない会話より言葉、行動から本人の思いを汲み取るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等で日々の暮らしている様子を伝えたり、当事業所の認知症ケアなどの報告を伝えたりと面会時や、月に1回おたよりで情報発信して関係作りにつとめている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の方と面談で当事業所を選んだ理由や、一番何を求めているのかを確認して対応に努めている。ケア対応で必要上、医療的サービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「人生の先輩」と共に時間を過ごしている、共に生活をする「家族」のような関係を目指して関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族等とのひとときの時間を大切に見守りながらも近日の報告をおたよりで報告したり、季節行事に参加してもらって関係を構築するようにつとめている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の大切にしてきた関係者と連絡は取り合ったり、馴染みの場所に連れて行ったりもしているが、記憶が薄れたり、身体状況によって連れて行くことが難しくなっている方もいる。	馴染みの人や場所との関係を保つ為、個々の身体状況を考慮した上で、遠距離に關係なく、同行支援に努めている。四国や朽木・高島方面への外出事例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい入居者様が入居された時に見られる傾向なので、関係を築く上で、入居者様同士の「共通点」を見出して繋げられるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去、他所転居になった方にはお見舞いに行ったり、様子を伺うなどしている。また、最近入退去された方の関係者も当事業所の近所の方なのでお会いすると当時の思い出話や近況話もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	発語困難、寝たきり身体状況等で意思疎通難しくなる方が増えて、意思疎通ができていた頃の人柄等を振り返って思い出話をしたり、家族様より入所以前の生活様子を再び伺い、会話して表情を汲み取っている。	「私の暮らしシート」や「私の生活環境シート」で利用者の希望や意向を把握しているが、日常的にはその時その時の表情、特に入浴時等のリラックスしたときの表情や意向表明などを丁寧に読み取り支援に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、ご家族もあれば、面会に来られたお知り合いの方や、馴染みのあったご近所さんより伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の表情、しぐさ、会話にも注意を払い具体的に記録に記載し、引継ぎ等の記録を確認することにより現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にてケアプラン以外の項目についても話し合いその実施、検討内容がプラン化することもある。必要によって、主治医(協力医)、訪問看護、マッサージ師にも協力してくれている。	3ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。見直しには、生活介助計画に沿って、モニタリング、アセスメント、計画修正へと段階を進めている。都度家族へ説明し了承を得ている。状態が急変した場合は都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の細かな変化も記録して各職員それぞれの意見も参考にして会議等でまとめてその都度対応を変化させ介護計画の見直しにいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況や家族の要望をもとに医療関係者、訪問マッサージ、福祉用具、地域文化交流サービスと連携して支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度においては、ボランティアによる催し物の開催が多く、とても助かりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が出愛荘の協力医であるがご家族の協力、要望により長年通いながれた病院の受診、往診を継続している	一名がかかりつけ医を選択している以外は協力医で受診している。協力医の月2回の定期往診は継続している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医系列の訪問看護ステーションの看護師に来ていただいております。適切なアドバイス、対応の仕方をいただいております。また訪看より主治医と確認調整もしてくれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人的に見舞いに行く職員も多々あり情報交換を迅速に行なうようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より意思確認を伺う書類を用意して把握している。命に関わる事項のため容態変化時に再確認、意思変更もある時はその都度変更している。身寄りのいない利用者もいるが、その方には権利擁護事業所の協力のもと支援にも努めている	方針を明記した事前指定書に従って、家族・関係者に入居時に説明し同意を得て進めている。内容に変化が起きればその都度家族（場合により権利擁護事業所）・医師・事業所との協議して合意を得て支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際の場面に遭遇した事例が少なく、対応力に経験不足の感もあるため、実践対応をできるようにしていくことが課題である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いざ実際の場面を想定した訓練を行なうと慌てる箇所が多々見られる。また建物構造上2F利用者のケガなく搬送する方法には様々な課題もある	年2回消防署の指導を受け、夜間想定訓練も実施している。2階からの避難時、移乗用ネットで階段をゆっくり滑り降りる搬送法がより良い方法と確認している。地域の協力を得ているが、夜間避難時の人手などはまだ十分ではない。	夜間避難時の人手の問題について、継続して検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係になることより言葉かけが軽々しくならないように気をつけ、一人ひとりの尊厳を大切にできるように気をつけていく	「常に他人から見られていると思え」「家族の前でも同じ様に振る舞え」、を念頭に置いて言動に注意を払い支援している。職員が互いに注意し合えるように努めている。個人情報 は事務所の保管庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの声かけにも利用者本人が思いや、希望を表しにくくなってきている方に対しては、慎重な対応を心がけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての利用者に全てのことができるわけではないので歯がゆい思いを職員は持ちつつも、出来る限りの本人のペースを大切に日々努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好んで服を選ぶ方が少なくなってきている中で職員より身だしなみは気をつけている。理美容は近所の美容院に行くこともあれば、訪問してもらうこともある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	左記内容の方は1~2名しかいないが、お願いするとすると「やりませ」「やったで!!」とその場を盛り上げてくれる。	給食方式であるが、週1回は手作り料理で個々の希望を採り入れたり、ひと手間かけて美味しくするなどの工夫をしている。職員も同じメニューで話しかけながら一緒に食事を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大半の方はしっかりと食事、水分摂れているが、食べ方のリズムに特徴ある方にはそのリズム、食事形態、量を把握して支援している。医療上食事制限ある方にも別に専用食を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日1回や、2回の方とさまざまである。希望者対象に訪問歯科による対応も行ない、職員の口腔ケアの意識付けを強化している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態、時間を記録にしてパターンを確認して時間を見計らってトイレ誘導を行っている。	排泄パターンを把握し、トイレに誘導支援して失禁率を下げている。排泄に失敗した時は本人の気持ちを察し、さりげない様子・態度でケアに当たっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自分で体を動かすことができなくなったり、声も出なくなった方が多くなったことで便秘対応には乳製品飲料、下剤薬を必要としている。下剤薬量はその都度本人に合わせるように調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～3日に1回は入浴してもらおうようしている。男性利用者が夜間入浴希望している方もいる。逆に午前入浴を希望される方もいる。	2～3日に1回の入浴頻度である。一部夜間入浴(17時～20時)の希望に応じて支援をすることもある。基本は同性支援であるが、時には利用者の了解を得て、異性による支援もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に利用者まかせの自由なところもあるが、重度の方には時間おきに一旦ベット横にさせて体を休ませる方もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人がどのような薬を飲んでいるかファイルがあり、いつ服薬したかの時間も記録にする方もいて慎重に対応を心掛けている。特に頓服薬、下剤薬には更なる対応を心がけるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で利用者ができることをおこなってもらい、作業なら感謝の気持ち、楽しみごとには一緒に楽しんだ気持ちを言葉できちんと伝え取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員体制が整えば、ドライブや喫茶店に出かけたりしている。近所で行なわれている民生委員のボランティアサロンにも出かけている	週1回で近くの民生サロンに出かけ、外部との交流機会をもって気分転換している。病院受診の帰り時を利用して近辺を散策する事もある。季節に合わせて車で外出の機会も作っている。外出時は電話を携帯して連絡を緊密にとれるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全利用者出愛荘による完全管理で行っている。中には個人で自身の財布、小銭程度はあり、手元にあるだけで安心するというのと、外出時の買い物に使用している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯電話を持参されている方もいて自ら連絡したり、事業所からはお便りを通じて様子を伝えたり、ご家族からの手紙がきて利用者に渡し、返事を希望する時は準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、屋内廊下、リビング、庭などに日々の写真、プランター農作物、花壇であったり、リビングから流れる音楽や映像と様々である。季節柄、雛人形、クリスマスツリー等も並べます。	居室の入り口付近に外出した時や催事の楽しい思い出写真を掲示し、楽しい雰囲気を作り出している。手作りの置物や飾り物で季節感を出す工夫をしている。中庭を設け適度な採光がある。トイレや風呂場は清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置、ソファ位置、喫煙所を決めているだけであとは自ずと利用者まかせの雰囲気で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使い慣れた生活用具(タンス、イス、中には仏壇もある)の持ち込みをご家族にお願いして出来るだけ自宅に近い雰囲気気で生活していただけるよう努めている	家族と一緒に使って使い慣れた生活用品を持ち込み、居心地良く過ごせる様に工夫している。各居室は清潔で、室温・照度も好みに合わせて個別に調節している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットの高さや位置、物の配置を各個人が安全で使いやすいように考えて状況に応じてその都度変更も応じている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間避難時の人手などはまだ十分ではない。また、火災時の煙を想定した上での避難訓練が必要	訓練実行に取り組める内容を定めて行う	消防関係者の方とも相談して取り組んでいく	12ヶ月
2	38 48 53	寝たきり生活になっている方に対する関わり	寝たきり生活になっている方の関わり方に画一的にならないようにしていきたい	寝たきり生活になっている方に、日々の暮らしの中にも、レクリエーション等での活動と参加のような、かかわりを持っていきたい	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。